

不登校対策支援プラン

更新日 4 月 5 日

プランの策定にあたって

県内において不登校児童生徒数は増加傾向にある中、不登校対策では、対象や課題性に基づいた取組が求められています。全ての児童生徒を対象とした取組や不登校の予兆が見られる児童生徒への支援、欠席が継続している児童生徒への支援を組織的かつ計画的に行うことが必要です。

本校では、実態を把握し、以下の目標や取組を設定し、教職員が一丸となり対策を進めることで、誰一人取り残すことのない、持続可能な不登校対策や支援を行います。

不登校対策の目標

- 1 不登校の児童が登校できる日を増やす。
- 2 すべての不登校の傾向が見られた児童に、各関係機関と連携しながら組織的・計画的に支援し、誰一人とり残さないようにする。

不登校対策における重層的支援構造

(参考：生徒指導提要R4.12)

困難課題対応
不登校児童生徒対象

- ・不登校児童生徒へのカンパリングや別室登校
- ・保護者や関係機関と連携した支援
(拡大ケース会議の実施)

早期発見対応
予兆のある生徒対象

- ・休み始めの段階でのアセスメント
(校内ケース会議)
- ・組織的対応、保護者と連携した支援

未然防止教育
全ての児童生徒対象
不登校対策を意識する

- ・児童生徒がSOSを出す力を獲得
- ・教職員が児童生徒の変化に気づきSOSを受けとめる力の向上

発達支持
全ての児童生徒対象
不登校を意識しない

- ・安全・安心な居場所となるための「魅力ある学校づくり」と「分かりやすい授業」の工夫
- ・教育相談体制の充実

不登校対策チーム構成

管理職、生活指導担当教員、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、該当担当等

不登校児童生徒支援関係機関等

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校サポートチーム、適応指導教室

4つの層での取組 等

発達支持

- ・安心して生活するために、共感的理解と受容の姿勢で生活指導を行う。
- ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）の機能を取り入れた授業を行い、安心して学習できる集団作りをする。

未然防止教育

- ・スクールカウンセラーと担任が連携し、予防的な取り組みとして、子どものコミュニケーションスキルを高める関わりを行う。
- ・職員会での「神野っ子を語る」で、児童の情報交換や共通理解の場とする。

早期発見対応

- ・教職員が、一人一人に寄り添った児童理解に努める。（学校生活アンケート、いじめアンケート、QUアンケート、保護者アンケート、個別面談など）
- ・保護者との日頃からの関係作りを大切にし、児童の情報を共有する。

困難課題対応

- ・校内に別室を設置し、安心して過ごせる場所を設置する。
- ・毎週教職員の時間割を一覧にして作成し、不登校児にいろいろな教職員が関わる体制作りを行う。